

「南会津地方広域市町村圏組合只見出張所新庁舎基本・実施設計業務委託」

簡易型設計競技審査委員会 審査講評

1. 審査経過

本簡易型設計競技（以下、「設計競技」という。）は南会津地方広域市町村圏組合と福島県建築設計協同組合が締結した「南会津地方広域市町村圏組合只見出張所新庁舎建設 基本・実施設計業務委託」の設計担当者を選定するためのものであり、各分野を代表する5名の審査委員による審査委員会が設置され、慎重かつ厳正な審査を行った。

只見出張所庁舎新築工事は、現庁舎の東に800mほど離れた新たな敷地に建設するものである。敷地（約3,000㎡）は南北に長い長方形の敷地で、2階建て、延べ床面積約530㎡の庁舎等を整備するもので、本設計競技に際しては配置図、各階平面図、立面図以外に、設計趣旨として、①配置計画について、②平面計画について、③立面計画について、④多雪寒冷地に関する配慮について求めている。

今般の消防署の整備にあたっては、災害対応拠点としての機能強化や感染症対策、女性職員への対応が重要となってきたが、今回の設計競技は只見地域の特殊性により冬季の機能維持も大きな課題であり、参加対象を多雪寒冷地に関する高い知見を有する会津方部の組合員を対象としたことから、書面による絞り込みの審査は行わず参加者すべてをヒアリング対象者とした。

審査会は7月28日（木）に「郡山市安積総合学習センター」で開催し、ヒアリングに先立ち開催した審査委員会では、提案書の事前審査の結果を各審査員がそれぞれの専門的立場から5者すべての提案書について意見を述べ事前の情報共有を行った。配置計画では屋根の落雪や除雪の考え方、新庁舎の来庁者動線、緊急車両及び外来者それぞれの車両動線計画など、平面計画では食堂の位置や仮眠室の設置階からの緊急出動動線、事務室・会議室等の一般利用者エリアの使い方などについて意見が交わされた。

また、審査に先立ち審査の進め方等について審議し、最優秀提案者1者及び優秀提案者1社を選定すること、ヒアリングは1者25分（説明10分、質疑15分）とすること、ヒアリング終了後の選定作業は投票結果を参考に意見交換を行うこととした。また、必要に応じ再投票を行うこととなった。

引き続きヒアリングによる審査ではプロジェクターを使って各提案者が説明を行い、雪対策については落雪場所を1方向に集約するものや2方向に振り分けるものなど様々なタイプの提案となった。その上で、①建設コストの縮減の考え方、②雪対策と除雪の考え方、③ハザードマップと発電機室等の対策、④出動準備室と車庫との段差、⑤食堂や仮眠室の設置階、⑥緊急出動時の署員動線、⑦会議室等の一般利用者エリアと動線、⑧省エネほか維持管理コストの考え方、などについて質疑応答を行った。

今回は、建築設計者選定方式として、プロポーザルではなく簡易型とはいえ設計競技であることもあって、実際の設計時に軽微な修正はあるとしても、ヒアリングでは基本的に提案された建築の確認といった側面が強くなった。

その後、最優秀提案者、優秀提案者の選定作業に入り、審査員無記名で1人当たり2票の投票を行った結果、得票数5票1者（受付番号⑤）、3票1者（受付番号①）、1票2者（受付番号②、③）、となった。委員長裁定で各審査員による意見交換を行った後、得票数5票（満票）を獲得した受付番号⑤を最優秀提案者に、3票を獲得した受付番号①を優秀提案者に選定した。

結果として、多雪地域の建築であることから、勾配も含めた屋根の形状や素材、また落雪後の除雪や堆雪スペースについてが、先ず議論の中心となった。前者は、片流れ案（受付番号②と④）、切妻案（受付番号③と⑤）、切妻を基本とした組み合わせ案（受付番号①）に大別され、確実な落雪や除雪の観点からすると3寸勾配以上の切妻をベースとする案の評価が高かった。その上で、後者の堆雪スペースについては、南側に大きく余裕を持った配置が評価された（受付番号①と③と⑤）。中でも、最もシンプルな切妻案（受付番号③）は、軒の出がなく平側の外壁との兼ね合いもあり維持管理が不安視され（受付番号③）たが、残り2案、最優秀提案者（受付番号⑤）と優秀提案者（受付番号①）の違いは、屋根勾配の徹底とシンプルな屋根構成にあった。同時に、その3案は、提案書において、当該地域から見える山並み等、景観への配慮も意識している。一方、片流れの2案も、ZEBなど様々な提案を積極的に盛り込まれた案（受付番号②）、よりコンパクトにまとめられた案（受付番号④）として一定の評価はされたが、当該地域での一定面積以上の片流れ屋根による落雪や除雪への不安に加え、屋根勾配によって3階に近い吹抜等の空間ができる難しい面などが指摘された。

また、平面計画としては、5者とも総じて同種施設の建築設計の経験が豊富な印象を受け、仮眠室や食堂、会議室の位置など、一長一短はあるものの、どの案も一定以上の評価を得ていた。その上で、唯一仮眠室を1階に配置した優秀提案者（受付番号①）の特徴ある提案、それ以外では、プランや動線のコンパクトさ、事務室の執務環境や視認性など、最もバランス良く提案されたのが最優秀提案者（受付番号⑤）という評価を得た。

なお、最優秀提案者（受付番号⑤）は、外壁に必要な加工を施した上で地域産木材を利用する積極的な提案も見られ、上述した屋根の評価と相俟って、総合して最優秀提案者に相応しく満票の得票を得たと言えよう。

最後に、簡易型とはいえ設計競技であるため、最優秀提案者の提案は、一定程度、尊重されるべきであろうが、昨今の建設コストの高騰に鑑みつつ、より詳細な計画要件をヒアリングした上で、基本・実施設計中に柔軟に対応され、よりバランスの良い建築になることを期待したい。

2. 審査結果

最優秀提案者：(株)白井設計

優秀提案者：(株)山口設計

3. 審査委員会の構成

審査委員長：浦部 智義（日大工学部教授）

審査委員：宮崎 渉（日大工学部専任講師）

審査委員：河原田 友成（只見町農林建設課建設係長）

審査委員 : 高橋 稔雄 (南会津地方広域市町村圏組合消防本部消防長)

審査委員 : 五十嵐 伸 (南会津地方広域市町村圏組合消防署只見出張所長)。

4. 応募 5 者への意見

◇受付番号①

- ・ 1 階仮眠室と執務室等、2 階に食堂、会議室を配置したタイプである。
- ・ 1 階に仮眠室があるため、夜間の緊急出動に配慮した計画となっている。
- ・ 車庫の前に防雪壁が設置されているところが良い。
- ・ 建物の西側、南側に通路として雁木を設けているが、冬場は雪囲いを設置する必要がある。
- ・ 屋根形状が複雑で来庁者のアプローチについて屋根からの落雪に関する記述が無い。屋根からの落雪をクリアする必要がある。トイレ周りの配置を再検討し入り口を見直す方法もあるのではないかな。
- ・ 2 階の食堂は職員のプライベート空間であり、一般者が来る会議室とは離したい。
- ・ 敷地の出入りは北側の国道からのみとなっており、南側の町道からの出入りが想定されていない。
- ・ 訓練スペースが大屋根の下に設けられているので天候に左右されず訓練が可能である。
- ・ ゴミ置き場が建物から離れているため、冬季のごみ処理が大変ではないかな。
- ・ 屋根の雪が西側に最も多く堆積するが幅が 6 m しかなくローダーによる排雪作業を行うのには狭い。

◇受付番号②

- ・ 1 階南側に事務室、食堂兼待機室をまとめて配置し、2 階に仮眠室がある提案である。
- ・ どの場所からも出場準備室にスムーズにいけるよう考えられている。会議室も 1 階入り口近くに独立して配置され、一般の来庁者と職員の動線が錯綜しないように配慮されている。
- ・ 片流れの屋根で屋根の雪がすべて南側に落ちる形状となっており、駐車場との間に堆積するため建物へのアクセスルートの確保に難がある。
- ・ 落雪のため屋根勾配を急にすると北側の軒高が非常に高くなってしまうため、こう配を 2/10 に抑えていることから実施する場合は再検討が必要ではないかな。
- ・ 透水性アスファルト舗装を提案されているが、地元で施工できる業者はなく、メンテナンスも必要になるため、現実的ではない。
- ・ 太陽光モジュールについては有効性の検証が必要ではないかな。

◇受付番号③

- ・ 1 階に事務部門、2 階に仮眠室と食堂を配置したタイプである。
- ・ 開口は南北面だけに設け、東西面は壁を屋根の延長として考えたシンプルなデザインとなっている。
- ・ 軒先が無い分、軒折れを心配する必要はないが壁に沿って雪が堆積するため除雪の際に外壁を痛める心配がある。
- ・ 仮眠室が大部屋を仕切ったような形となっており、窓のない部屋があり、環境的に適切か

検証する必要がある。

- ・ 出場準備室から車庫への段差は安全上好ましくない。
- ・ 玄関ホールが広い反面トイレが車庫に張り出しており、再考が必要である。
- ・ 提案書の書き込みが少なく、判断する材料が足りないと感じる。

◇受付番号④

- ・ 1階に事務部門、2階に仮眠室と食堂を配置したタイプである。
- ・ 片流れの屋根で屋根の雪をすべて西側に落とす計画となっておりが、たまった雪を排雪するのは大変になるため、除雪の頻度が多くなるのではないか。
- ・ 屋根からの雪が堆雪する西側に柱型が出ている構造となっており、除雪の際に邪魔にならないか。
- ・ 道路から入り口までのアプローチが長い。
- ・ 道路から建物までの距離も長いので除雪範囲が広がるため、再検討が必要ではないか。
- ・ 西風を避けるための車庫前の袖壁は良い。
- ・ 落雪のため屋根勾配を 3/10 としているため、東側の軒高が高く、圧迫感がある。
- ・ 融雪池の提案があるが只見の雪の量を考えた場合、有効性には疑問がある。
- ・ 引き戸が多用されておりドアのように邪魔にならない工夫がある。
- ・ 2階仮眠室内から出場準備室までのつながりは良い。
- ・ 1階トイレが来客と職員が兼用になるが、外来者は事務室又は会議室を通らないとトイレまで行けないため、通路を工夫する必要がある。
- ・ 雪のついたまま職員玄関から書庫を通るのは不適當であり、洗濯・乾燥室の使い方も含め再考が必要ではないか。
- ・ 洗濯・乾燥室へ行くのに救急消毒室を通る必要がある。
- ・ 事務室から外の様子を確認しにくいのではないか。

◇受付番号⑤

- ・ 1階に事務部門、2階に仮眠室と食堂を配置したタイプである。
- ・ 執務関係諸室及び仮眠室等の居室が可能な限り南側に配置しシンプルかつコンパクトに収められている。建物東西のスペースが広くとられており除雪しやすい配置計画となっている。
- ・ 切妻屋根で屋根からの落雪を振り分けているが、1階東側の軒高が低く落雪が屋根とつながってしまう可能性が高い。棟の位置を変えるなど軒高を上げる必要があるのではないか。
- ・ 屋根は 4 寸勾配とし雪割を設け屋根に雪が残りにくい工夫がされている。
- ・ 除雪ローダーは冬期間のリースのため降雪期以外の格納場所は不要であり、車庫エリアの有効活用を検討してほしい。
- ・ 仮眠室や事務室と出場準備室との関係が明快で、準備室をスルーして車庫に行けるのは良い。
- ・ 出場準備室の面積が広く確保されているのは良い。
- ・ シンプルでコンパクトな提案の中で木質化や街並みを意識したデザインなど挑戦していることを無理のない範囲で調整している。